

2013

平成 25 年 3 月 発行



J・A・C

公益社団法人

日本山岳会 千葉支部

千葉支部だより

発行者 篠崎仁

編集者 結城純一

(第 22 号)

第六回 栃木・千葉・茨城三支部合同懇談会に参加して



期 日 2013 年 2 月 2 日(土)～3 日(日)

参加者数 千葉支部 16 名 栃木支部 9 名 茨城支部 14 名 計 39 名

参加者名 篠崎仁、三木雄三、佐藤明夫、小沢けいこ、鈴木美代、坂上光恵、結城純一、
柳下忠義、山崎完治、黒田正雄、石岡慎介、大悟坊雄作、大浦陽子、金子有美子、
湯下正子、諏訪吉春

開催地 茨城県久慈郡大子町池田 リバーサイド奥久慈「福寿荘」

今年の三支部合同懇談会は茨城支部の主催で、袋田の滝で有名な奥久慈で開催された。千葉支部の参加者16名は各々、車組2台と電車組に分かれて初日の受付・講演会場の大子町中央公民館に向かった。全員、受付時の13時半までに無事に到着。14時より、茨城支部長・星埜由尚氏の歓迎の挨拶と同氏による「信仰と立山・地図に見る立山信仰」と題する講演会を拝聴する。ご承知の通り、星埜氏

は前・国土地理院院長で、日本測量協会副会長、日本国際地図協会会長等の要職を兼任しており、まさに日本地図学会の泰斗であり実に有意義な講演会を聴く事ができました。先生が山岳信仰に興味を持たれた経緯は近年の評判映画の「剣岳・点の記」の撮影に日本測量協会が協力し、監修を依頼された事から始まり、全国の修験道で、著名な「熊野」「羽黒山」「立山」の各修験道の中から、剣と関係

の深い「立山曼荼羅」図に着目し、いわば地図で見る立山信仰とはどういうものかを詳しく説明して戴きました。昔の曼荼羅絵で見る剣山は正しく無数の剣を天に向かって突き刺したように描かれており、周囲の他の山々とは一線を画し、登れる山とは認識されていなかった事がよく解りました。

各支部からの支部活動報告を終えて、入浴後の17時半から懇親会が始まりました。当地は厳冬期は袋田の滝の凍結が有名ですが、久慈川の流れの表面が一部凍結しシャーベツ

ト状に流れる事に因み、福寿荘のみだけで提供しているシャーベツ状のお酒「しが」にて乾杯、この不思議な氷結酒を盛夏に飲んだら、また一段と格別な味であろうと想像しました。奥久慈の美味しい肴を頼みに酒が多いにすみ、いつもの楽しい酒宴となりました。

色々と細かい所まで気を配って戴き茨城支部の会員の皆様には改めて感謝申し上げます。

(諏訪吉春)

生瀬富士登山

袋田の滝駐車場にて全員の集合写真の撮影。山班はこれから登る生瀬富士を仰ぎつつ登山路や注意事項の説明を受ける。9時15分にリーダーより出発の指示がでる。

山班は千葉支部13名・栃木支部8名・茨城支部5名総勢26名である。

岱山硯工房入り口前には生瀬富士の道標もしっかりとあり。ここからは深い落ち葉の絨毯を踏んでの本格的登山道である。出初めは緩やかな樹林帯であり、凜とした冷氣ではあるが木漏れ日も温かい。天気は快晴であり見上げる樹間の紺碧の青空が目には沁みる。

私は後ろから3番手に入る。後ろは茨城支部の世話役2名である。途中3回の立ち休憩。日差しも温かく風もほとんど無く、絶好の登山日和である。

歩き始めて1時間半 頂上直下の鎖やロープの張られた岩場で渋滞したが、先頭の方で頂上に着いた様で歓声が上がる。

山頂到着 山頂標識の標高が400mと420mの2種あり。そういえば、出発前に配布された地図では406mとなっている。低山は正確な測量がなされておらず、

こういうケースもまま有るが、地元では統一して欲しいものである。

大半の者が、馬の背の痩せ尾根を5分程渡り、北の岩峰に移動。少しスリルも味わえて、樹木も全く無い360度の眺望は素晴らしい。遙か西には雪の日光連山も良く見える。

東には久慈山塊の主峰男体山654mも間近である。

この山は、私の大腸ガン発覚の端緒となった因縁の山なのである。私は昨年3月でガンサバイダーの称号を得ました。これはガン手術後5年間生存した者。

私を三途の川より呼び戻した山の神が、「貴様の個人的エンジョイをさせる為では無いぞ・分かっているな」と叱咤している声が私には聞こえました。

11時20分 私も下山開始 こんな急坂を登って来たのかと、改めてビックリ。12時15分 予定より15分遅れて全員無事下山。熱くて美味しい久慈軍鶏のお蕎麦と柚子を刻んでまぶしたリンゴのデザートを賞味し、流れ解散。

我々5人組は、竜神大吊橋を見学。「がんばっぺ」茨城の大横断幕。小沢さんが代表して料金を払い渡橋。チョッピリと茨城復興のお役に立ったのかしらと自己満足しつつ無事帰宅。

(大悟法雄作)

『裏高尾』(景信山～小仏峠～城山～高尾山)縦走記



期 日 2012年 12 月 15 日(土)

参加者 小澤けい子、黒田正雄、小板橋志朗、坂上光恵、塩塚生二、杉本正夫、諏訪吉春、
高橋琢子、三木雄三、柳下忠義、柳川しげよ、山口文嗣、山崎完治、吉永英明、
渡邊信一・すみ子、柿沼洋一・充子、新井好夫 19 名(敬称略)

12 月 15 日(土)JR 佐倉駅で休日おでかけパス(2600円)を買求め、家内と柿沼夫妻と一緒に朝 7 時前に横須賀線に乗りして東京駅に向かった。

東京駅から中央線に乗り換えてJR高尾駅に 9 時過ぎに着いた。集合場所を JR 高尾駅北口と知らずに南口に降りてしまってちょっと戸惑った。JR 高尾駅北口で今回の参加者(19 名)が集まったので高尾駅北口からバス(15 分)で小仏まで行き、そこから三木雄三リーダーを先頭に景信山(727^{メートル})に登り始めた。

今回は家内の友人の柿沼洋一・充子夫妻が初めて参加した。柿沼夫妻は三木さんの後に付いて登りながら三木さんから登山に関するアドバイスを受けながら紅葉の終わった登山道を一気に景信山(11 時過ぎ)まで辿り着いた。低山ながら丹沢や三つ峠などが遠望できた。景信山の頂上で全員の集合写真を撮った。

景信山の頂上小屋では別のグループが餅つき大会で楽しんでいた。そこから小仏峠まで降り、城山(670^{メートル})へと登り、昼食(13 時頃)となった。城山的小屋では名物のナメコ汁(250 円)も味わ

った。やはり 12 月なので食事中には寒くなってきた。城山からは相模湖の上に富士山や丹沢方面が一望できた。天気予報では雨の心配もされたが運良く曇り空が続いてくれて『裏高尾』と呼ばれる尾根道をのんびりと高尾山(599^{メートル})まで歩き、14 時半ごろに頂上に着いて無事に裏高尾の縦走が出来ました。このルートは登山道がしっかり整備されており、道幅も広くて安心できるコースでした。只、途中で霜柱が溶けて歩き難い所もありました。

裏高尾の登山道には山桜の大木が目立ち、春 4 月の頃には満開の桜の下を散策できるかなと思った。高尾山からの降りは『天狗さま』で有名な薬王院を参拝し、全員で今年の山行の無事を感謝し、厄落としを行いました。15 時過ぎ、無事に京王線高尾山口駅前に着いた。そこで『反省会』を開催、蕎麦が有名で柿の木が店内から伸びている「高橋」で美味しいトロロ蕎麦を肴にビールで乾杯をした。16 時過ぎ、現地解散とし京王線高尾山口駅(電車 5 分)～JR 高尾駅に出た。三木リーダー以下何名かは東京駅へ向かった。

(渡邊信一)

北八ヶ岳 縞枯山・北横岳山行



期 日 2013年1月12日(土)～13日(日)

参加者 岩尾富士夫(L)、山口文嗣(SL)、吉永英明、高橋正彦、三木雄三、諏訪吉春、坂上光恵、
吉野聡、小板橋志朗、柳川しげよ、田代貴征 計11名

2013年1月12日 5時40分梅郷発の東武野田線に乗り、船橋駅を目指します。船橋駅であずさ3号に乗り込み、すでに千葉駅より乗車されている山岳会の方々と無事合流することができました。

JR、諏訪バス、ピラタス蓼科ロープウェイと順調に進むことができ、ロープウェイ山頂駅よりいよいよ冬山登山の出発となります。ロープウェイの中や、山頂駅の周りは、登山者、スキーヤー、スノーボーの人と入り乱れた感じで、晴天の下みんな笑顔で楽しそうに見えます。手袋をはめ、サングラスや帽子、スパッツにアイゼン、みなそれぞれに準備をしています。

冬山初デビューの自分は、やはりもたもたしてしまい、先に歩きはじめた皆さんに一步遅れてのスタートに……それにしても、素晴らしい青空です。雪は本当に真っ白でその何とも言えない美しいコントラストの中で、みな同じ方向に枝を伸ばしている樹木。足元では、締まった雪が「キュウッ キュウッ」と啼ってすべてが楽しい山歩きです。

13時40分 縞枯山山頂到着。風は吹いていましたが、さほどでもなく、本当に天候に恵まれました。

本日の宿泊小屋 縞枯山荘には登って来た登山道を戻ります。復路の登山道にて、山口さんによる雪山雪崩の講義、及びゾンデ・ビーコンの使い方レクチャーを受けさせてもらいました。ありがとうございました(遭難者役になり雪に埋まって頂いた吉野さん、冷たい中ありがとうございました。)



その後 順調に雪山の中を下り、程なくして縞枯山荘に到着しました。小屋を外から見るとその佇まいは、三角屋根の合掌づくりのような可愛らしさがあります。しかし 中に入ってみると、少し薄暗いせいもあり なんとなく重厚なおもしろい感じがしてきます。寝床を決め 荷物を置いた後、炭のコタツに集まり 夕飯までの間酒盛りして待ちます。夕飯後 もう一飲みして寝床へ、夜空を覗に外へ行きたい気持ちもありましたが、寒さのため簡単に断念しました。



翌日は、朝食を食べ 7:30 小屋を出発し北横岳を目指します。時間を少し遅れ縞枯山荘を後にして、北横岳へ。

お日さまは、まだ山の稜線に隠れています。空はあいかわらずの 真っ青です。しばらく歩き坪庭に入る頃、山の稜線から 眩しい陽の光があたりはじめました。斜めから射す光が 坪庭の雪をキラキラ輝かせ何とも美しい景色です。何枚もなんまいもシャッターを切ってしまいました。坪庭を抜け 登山道の途中木々の間から振りかえ

る坪庭も、本当に綺麗でした。その後樹林帯の中を抜けていくと、北横岳ヒュッテが現れます。こちらの山小屋はひっそりとした 静かなたたずまいの、落ち着いた感じの山小屋にみえました。ここから 北横岳山頂まではあと少しのことなので、荷物を小屋の前にデポして山頂を目指すことにしました。樹林の中の直線的な急登を進みます。積雪のおかげで 無積雪期よりも登りやすくなっている感じでした。9時18分 北横岳南峰到着。さすがに風は強く吹き付けてきます、が本当の冬の風は こんなものではないそうです。すぐに南峰を後にして北峰2480mへと進みます。山頂からの景色は、すぐ目の前に蓼科山少し離れたさきに浅間山 また方向を変え北アルプスの山々が 綺麗に見わたせます。暫し 大パノラマを官能！北横岳ヒュッテ、坪庭を経てロープウェイ山頂駅に無事到着。そこからロープウェイを見上げながら ロープウェイ山麓駅まで歩いて下山。山麓駅レストランにて休憩(喉も潤し)後諏訪バスにて 茅野駅に。

茅野駅到着後、駅前の そば処茶屋さんで反省会を開催しました。真澄という美味しいお酒もいただき、帰路の電車の時間まで楽しく過ごせました。また その電車の中で二次会へと突入、あいかわらず皆さんの強さに(酒)びっくりでした。今回の山行は、本当に天候に恵まれ 素晴らしい雪山デビューになりました。晴れ男 晴れ女の皆さん ありがとうございました。

(田代貴征)



自然観察会 地震隆起のあとをたどる

期 日 2013年2月 16 日

参加者 小疇、大船(本部)、山田(本部)、篠崎、三木、諏訪、石岡、山口、佐藤、山崎、小澤、高橋、香高、香高、鈴木、

地形学がご専門で、当支部員でもある小疇明治大学名誉教授を講師に、“地震隆起のあとをたどる”と題して、千葉支部自然観察会、を行った。

千葉支部自然保護委員会としては、今年度唯一の行事となった。観察するだけでは自然保護とはいえない、というご意見もあるかと思うが、まずは千葉の自然に興味を持っていただくことから出発しようという趣旨である。

当日は晴天に恵まれたが、大変寒く、房総の春を歩く、という訳には行かなかった。10 時 10 分、館山駅前に集合。まず向かったのは沼の珊瑚礁である。“沼”は集落名であって、沼の中の珊瑚礁という意味ではない。実際、すぐ脇に用水池があって、渇水期にはこの法面にも珊瑚が見られるとのことではあるのだが…。

ここは 6000 万年前の海底であり、隆起によって、海岸段丘上に珊瑚が分布することとなった場所である。珊瑚を見に山のほうへ入って行くという不思議な体験をした。このような珊瑚礁のあとは内房の突端あたりに特徴的で、外房側では見つかっていないとのこと。なぜなのだろうか。その頃の外房は内房と全く気候条件が違ったのか、はたまた、何らかの事情で皆壊れてしまったのか、見えないところに隠れているのか。6000 万年の間になにがあったのか、考えるとわくわくする。

帰り道で、観光課の方にあって、珊瑚水

のくみ上げも見せて頂いた。珊瑚の層を通じて出てくる水はミネラルが豊富で美味しいとのこと。味音痴の私には良く分からなかったが…。

次に野島崎灯台に向かった。元禄の地震によって大きく隆起した跡が観察できる場所だ。5~6 メートルも隆起したとのこと。地震だけではなく、日常的にも千葉は、日本の中でももっとも地盤の隆起が大きい場所だそう。それなのに千葉に山がないのは隆起した土壌がだらしないから、すぐ崩れてしまうのだそう。10 万年や 20 万年長生きしたくらいでは、千葉の山を見ることはできないらしい。がっかり。

海沿いをバス停まで 1 時間ほど歩き、川の中の隆起地形と川による侵食の跡を見て、バスで館山駅に。例のごとく、駅前で打ち上げをして帰った。

山はないと言われる千葉ですが、山以外にも貴重な自然があるので、今後ともこのような企画を続けて行きたいと思います。また、時には千葉を飛び出して、他県の面白い自然や地形を見に行くのもいいかも。そんな企画と一緒に考えてくださる方を募集しています。

今回、前日より現地に出向いて、周到にご準備頂き、また分かりやすく興味深い講習をしていただいた小疇先生に心から感謝します。

そして(ずずしくも)次回もまたよろしく願います。(鈴木)

早春の鎌倉アルプス 天園ハイキングコース散策



期 日 2013年2月23日

参加者 宇津木仁典、大浦陽子、梶田義弘・天兵、小板橋志朗・紀子、香高真奈美・ふみな、
工藤まり子、高橋琢子、船木元、三木雄三、柳川しげよ、山口文嗣、山崎完治、
湯下正子、吉永英明、渡邊信一・すみ子 (敬称略)

寒い日が続いていたので心配でしたが風も無く絶好のハイキング日和に恵まれて鎌倉アルプス散策に参加しました。午前 10 時北鎌倉駅集合、全員遅れることなくハイカーで混雑する駅でトイレを済ませ 10 時半出発。円覚寺の前を通り過ぎ明月院の横の通りを進みハイキングコースへと向かう。ハイキングコースと軽く考えていましたが、とんでもないことでアップダウンを繰り返し登山道の尾根歩きの雰囲気です。山と山の入り江に広がる鎌倉独特の落ち着いた町並みの景観を見下ろすことが出来ました。このコースは明月院、建長寺、半増坊の後ろを尾根道で囲んでいて鎌倉で一番高い大平山の展望台からは広がる海と山とのコントラスト、おまけに富士山まで見える大サービスがあり、全員大喜びでした。天台で休憩。ここで「お昼かな」と期待したのですが未だ先とのことで気を取り直して穏やかな春の陽射しに感謝して歩き続け、天園峠の茶屋に到着し丁度 12 時で昼食になりました。温かいトン汁で体も温まり鎌倉市内を見ながらゆっくり食べていたら、出発の時間になってしまいました。いつまでものんびりと眺めていたい気分でしたが今日は先が長いので出発です。瑞泉寺の横に下りて瑞泉寺には寄らずに歩き続け鎌倉宮でトイレ休憩。鎌倉宮に官幣中社と書かれていましたが、官幣中社の意味を知らなかった私は吉永さんたちからその意味を教えて貰い勉強になりました。次に鶴岡八幡宮の満開の

梅の木の前で集合写真を撮り、湘南の暖かさと真っ白い梅の花に春を感じました。若宮大路から小町通りに出てショッピングの誘惑をひたすら無視して銭洗弁天へ向かいました。車道の坂道できついと思ったのですが、銭が 10 倍になるとあつては頑張るしかなく無事洗った銭は何倍になるか楽しみです。これから一山越えて最後の大仏様と言われて少し疲れていましたが車道ではなく登山道に入ったので眺望がよく楽しく歩けました。この時、「房総半島が見えた」と感激の聲が上がりました。千葉から来て房総半島が見えて皆ニコニコでした。ついに大仏様に着いて久し振りに全てをくみとってくれるような尊顔を拝することが出来ました。最近読んだ本に与謝野晶子の大仏様を詠んだ歌の「釈迦牟尼」は間違いだし「美男におわす」は尊さがないという意味のことが書かれていましたが作者の気持ちが分かるような気分になりました。皆、大仏様に魅せられたのか予定の時間をオーバーして 4 時半長谷駅に向かいました。約 10Km の行程を無事完了して春の鎌倉を満喫した散策でした。帰り、東京駅で有志の方で懇親会が行われ、和気あいの席上、会友の宇津木さんから「春から会員になります」と決意表明があり、吉永さんや山口さんが「大歓迎します」と大喜びでした。「今日の山行では富士山は見えたし、大仏様にも行った。仲間も増える」と大いに盛り上がりました。(湯下正子)

四水会新年会が盛大に！ 海外遠征へ盛り上がる



千葉市周辺と県北東部在住会員でつくる支部サテライト「四水(酔)会」(結城純一・津田麗子代表幹事)の新年会がこのほど、千葉市内の和食店『美弥和』(会友の井上元さん経営)で開かれた。

08年6月に会友となり、以来、房総分水嶺踏査や支部山行へ積極的に参加している高橋琢子(市原市)さんから「会員申込書」が吉永英明さんに手渡された。「皆さんと楽しい山登りを続けていきたい」と高橋さん。日本山岳会本部副会長でもある吉永さんは「こちらこそよろしく。いつもニコニコした人だなあと好感を持って見ていました。持ち前の笑顔で千葉支部を一段と明るく、楽しいものにして下さい」と歓迎し、自ら「私が推薦者となり、新年度からの手続きを始めます」と話した。支部監事の佐藤明夫さん、海外担当の岩尾富士夫さん、小板橋志朗さんらが「楽しい仲間が増えました。時にはのんびり、時には厳しい山に愉快的な心で挑戦しましょう」と次々に歓迎した。前共同通信千葉

支局長で東京本社に転勤となった会友の梶田義弘さんも、忙しいにもかかわらず駆けつけてくれた。

岩尾さんの乾杯の音頭でわいわいと宴会が始まったが、新年会とあって「今年は支部発足6年目。海外の山にも目を向けよう」、「300名山の取り組みも積極的にやろう」などと、元気の出る話題で持ちきり。

「四水(酔)会」は、真夏の8月と年末の12月を除く毎月の第4水曜日、ベースキャンプと称して「美弥和」を会場に例会を開いており、山の話や情報交換はもとより、楽しい交流の場として毎回、会員や会友が集まっている。

◆「四水(酔)会」では、会員皆さまの積極的な参加を呼びかけます。なかなか山行に参加できない方も、ぜひこの機会にご参加下さい。全員で「会」を楽しみましょう。

(三木 雄三)

桜の鹿野山山行のお誘い



鹿野山測地観測所の一等三角点から広重の「不二三十六景」で有名な鳥居崎(岬)へ。一旦田倉の本村地区に下り、九十九谷から房総第2の高峰鹿野山白鳥峰に登り返し、桜の咲く神野寺へ戻ります。

期 日 2013 年 4 月 20 日(土)

参 加 参加希望者は 4 月 11 日(木)までに下記担当山口まで申し込んで下さい。詳細をご連絡いたします。

予定コース 内房線佐貫町駅(バス)～測地観測所～鳥居岬～本村～九十九谷～白鳥神社～神野寺(バス)～佐貫町駅

徒歩時間 約4時間

担 当 山口 文嗣

関大塚山から高溝溪谷散策山行のお誘い



関大塚山は湊川中流右岸にある 199m の三角点峰です。関の姥石、犬岩を探索して大塚山に登り、反対の高宕川側に下ります。高宕川中流の高溝溪谷(仮称)は一時ライダーを中心にネット上で T 秘境として有名になった場所です。この時期なら足首くらいの水量の水の中をジャブジャブ歩いて散策出来ます。ただし登山靴ではやめておいた方が無難です。足回りは沢靴がベターですが、なければ長靴やゴムサンダルでも対応できます。

期 日 2013 年 6 月 8 日(土)

参 加 参加希望者は 5 月 30 日(木)までに下記担当山口まで申し込んで下さい。参加者には足拵えを含め詳細をご連絡いたします。

予定コース 内房線上総湊駅(バス)～姥石～関大塚山～高溝林道～
高溝溪谷往復環駅(バス)～上総湊駅

徒歩時間 約5時間

*但し日本三百名山の調査予定が入った場合は変更する場合があります。

担 当 山口 文嗣

海外登山(台湾・玉山)のお知らせ



支部発足 6 周年記念行事として海外の山に登ります。今回は気軽に行ける台湾・玉山です。台湾には3000m超える山岳が多くあり、中でも玉山はその最高峰3952mです。対日感情もよく、異文化にふれる山旅を楽しみましょう。皆様の参加をお待ちしています。

期 日:2013年7月5日～7月10日 5泊6日

申し込み:4月25日まで

パスポートは台湾到着時に、残存有効期間が3ヶ月以上必要です。

詳細は後日、ご連絡いたします。

期日は現地の都合により、変わることがありますのでご承知ください。

担当:岩尾富士夫

お知らせ

●公益事業

日本山岳会千葉支部の公益活動の一環として、松戸市内の児童養護施設である社会福祉法人「晴香園」の子供達との引率登山・ハイキング活動を実施する予定です。その第1回目の活動として、3月20日(祝)に高尾山ハイキングを行います。日影林道コースを歩き初春の高尾の植物等の自然観察をかねたものになります。先日、その下見を実施し、その報告を兼ねて「晴香園」を訪問し打合せをしてきました。晴香園の施設長さんのお話では、今後このハイキングを年間のクラブ活動として考えているとのことでした。

今回は初めて子供達を引率する登山なので、何人かの会員と行ってみて、注意点など確認してきたいと思っています。次回からは会員参加の登山にしたいと考えています
(参考:社会福祉法人「晴香園」 松戸市根木内145 047-345-2722)

●2013年度千葉支部通常総会開催のお知らせ

下記の通り、第六回通常総会を開催します。この総会は2012年度決算、2013年度事業計画並びに収支予算などを審議いただく重要な総会です。追って詳しいご案内を差し上げる事としておりますが、今からご予約をお願いします。総会終了後はいつものように懇親会を予定しております。また、記念山行は総会の翌日(5月19日)に企画しております。

総会日 2013年5月18日(土)

14:00~16:00 京葉銀行文化プラザ 7階(椿)

懇親会 16:30~18:30 居酒屋 美弥和

支部総会記念山行計画 2013年5月19日(日)

コース

久留里線下郡駅~船塚山~浅間山~壬申山~俵田白山神社(俵田古墳)~久留里線小櫃駅

歩行時間 約3時間30分

担当 山口文嗣

●編集後記

支部設立から6年 私の子供が生まれた年と 千葉支部の設立が同じ年でした 子供は春から小学生です。ただ いまだに抱っこ癖が取れなくて困っていますが・・・ 千葉支部にとって今年には海外登山や300名山など行事が色々あります。今年から千葉支部は小学1年生とは言いませんが 飛躍の年にしましょう。

(結城純一)